

【報告】

宇喜多秀家の史跡を見学

四月十五日(木)、岡山市議7名が垂水市に來られて、宇喜多秀家
関連の史跡を一緒に見学しました。

関ヶ原の戦いで西軍について戦い敗れた中納言・宇喜多秀家は、薩
摩の島津氏をたよって鹿児島へ逃れてきます。当時、秀家は二十九歳。
薩摩藩では、徳川家康方に対する配慮から秀家主従を薩摩の本拠
地・鹿児島鶴丸城へは迎えず、牛根の平野家に命じ匿うことにし
ました。平野家では、領有していた平野原の山手にある本宅・上屋敷
を秀家主従の住まいとして供し、平野家は、海路外敵の見張りを兼ね
る現在の住宅・下屋敷に移り、秀家が滞在した二年半にわたって支え
続けたのです。

岡山県では、以前から、「宇喜多秀家を大河ドラマに！」という取り
組みがされており、今回の市議の視察もその一環で、数年に一度の割
合で、垂水市を訪れているそうです。今回は、史談会副会長の川崎あ
さ子さんと史談会会員で垂水市文化財専門員・高嶺光佑さんに説明
していただき、平野家と宇喜多秀家潜居跡、そして、秀家が毎日片道
3kmを歩いて参拝した居世神社の三か所を訪れました。一時間半と
いう短時間の研修でしたが、中身の濃い非常に充実した楽しい時間で
した。特に印象深かったのは、平野家を訪問させていただいたことです。
平野家住宅は、今は第36代当主の奥様(ひみ子様・九十四歳)が守っ
ていらつしゃいます。(ご当主ではなく、奥様が平野家の直系だそうで
す。)(この日は、奥様だけでなく、娘さん方二人も一緒に迎えてくだ
さいました。前庭には宇喜多秀



家の供養塔が建てられています。
「足腰が弱って、山の供養塔ま
で行くのが難しいので、ここで
お参りしています。」とおつしゃ
っていました。時間がなかったの
で、玄関先で「あいさつ」をして宇喜
多秀家潜居跡へむかいました。
細い山道を進む途中に何軒か
廃屋がありました。平野家は、
秀家の護衛のために五軒の武
士たちを住ませ、この家はそ
の家系の方の住宅だそうです。
護衛をつけただけでなく、秀家
の旧家臣たちを多いたときは百
数十名も面倒をみていたそう

です。もちろん経費の負担は、平野家持ちです。平野家は、源平合戦
後に九州に逃れてきた平家の流れをくむ人たちで、同じく逃れてきた
秀家への同情や共感があったでしょうし、平野家自体財政的に豊かな
家であったのでしょうか、その対応に敬意と賞賛の念を禁じずにはいら
れません。潜居跡には、小さな祠があり、秀家をお祀りしてあり、ア
ジサイの葉を皿にしたお供えが置かれていました。川崎さんから、「平
野家では、自分たちと同じ皿を使わせるわけにいかないと、椿の葉や
つわの葉を使って失礼がないようにしていたのです。」と説明がありま
した。途中の道の草がきれいに払ってあり、気持ちよく見学できました。
潜居跡見学後、車を停めたところまで鉄道跡の道を歩いていると、「
「見て！平野さんが！」という声が。目を平野家方面に向けると、前

庭からこちらに向かって手を振る二名の女性の姿が。平野家を出てか
ら二十分は経っていたのに、外で待っていてくださったのでしよう。垂水
のわたしたちも、岡山からのみなさんも感激していました。後日、やわ
らかい青の服を着て手を振る奥様の姿を思い出しながら、「この家族
には訪れた人たちをあたたく迎える姿勢が四百年前から脈々と受
け継がれているんじゃないかなあ。」としみじみしてしまいました。

最後に、居世神社を訪問し、岡山からのお客さんたちとお別れし
ました。川崎さん、高嶺さんの説明も分かりやすかったですし、平野
家のみなさんのあたたかさにもふれた素敵な時間でした。岡山のみな
さんは、きっと「垂水びいき」になったんじゃないでしょうか。

平野家には、今度は史談会のみなさんとゆっくり訪れたいと思いま
した。
(古場昌彦)

「垂水の史跡・文化財」展①を開催

五月一日(三十一日)、「垂水の史跡・文化財」展①を 市立図書
館にて開催しました。今回は、「桜島の大正噴火」や「写真で見
るなつかしの垂水」の大きな写真、史跡からの出土品などを多くの
方々に見ていただくことができました。

アンケートへのご協力ありがとうございました。読ませていた
だと、「やってよかったなあ。」という気持ちになります。

- ・大正三年の大噴火の写真、大変驚かされて見ました。有り難う
ございました。多くの方々が来場されますことを切に望んで
います。
- ・地域の古い写真が、一カ所に集中管理できるとよいですね。
- ・昔の垂水の様子を感じることができるともよい企画ですね
- ・古い写真を大きくして見やすくしてください、とても良かつ
たです。歴史好きのわたしにとっては、貴重な写真の紹介、あ
りがとうございました。
- ・GWに、家族で訪れることができ、良かったです。
- ・ボーリング場のにぎやかな光景が懐かし思い出されます。
- ・写真展は、なつかしい景や知らなかった景があり、話題で盛り
上がりました。
- ・大切な資料が展示されて、わがふるさとを改めて知りました。
市外の人へお話しできるよう、いろいろな知識をふやしてい
きたいです。
- ・お長屋は、よく覚えていきます。子どもの頃は、物置になつて
いたと思います。棧橋の長いのはすごいですね。憶えているの
は、もう少し短かったように思います。

※中には、こんなうれしい、かわいらしいコメントも。
・たる水市に、むかしさくらじまが大ばくはつしたこととか、い
ろんなしゃんがあつて、すごかった。(小学三年生)
※子どもたちにもひびく展示にしていきたいですね。

★「垂水のかるた」大好評！
・垂水に住みながら、知らないことが多いので、かるたを通じて
小3の娘に垂水の魅力を伝えたいと思いました。レトロなイ
ラストも素敵ですね。
・垂水の色々な自慢がいっぱいのカルタができて楽しいです。

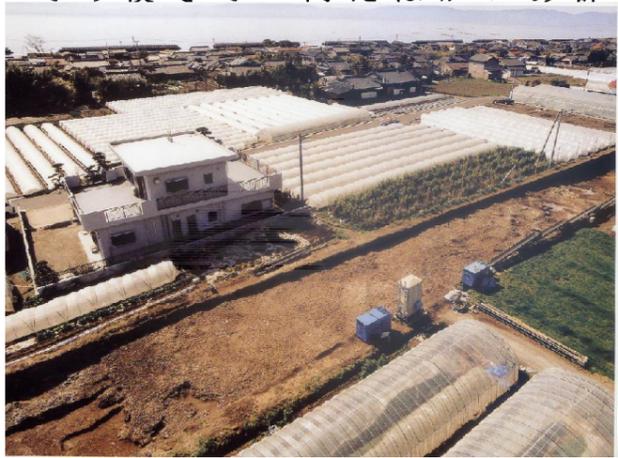
「垂水かるた」は、厳正な抽選のもと、五名の方にプレゼント
させていただきました。次回もあるのかな？(笑)
十一月に、「垂水の史跡・文化財」②を開催予定です。お楽しみ
に！
(古場昌彦)

(追記)「垂水かるた」は、「広報たるみず」6月号でも大きくと
り上げられていましたね。また、希望者殺到か？(笑)

研究ノート

柗原貝塚のすゝいところ

垂水市教育委員会では、出前講座などの場で、文化財に関する講座の実施や授業補助などを行っています。そうした活動の場において、「柗原貝塚って結局なにがすゝいの？」と聞かれることが何度かありました。柗原貝塚の特徴はいくつもあり、どれも魅力的ですが、今回はその中でも、「貝塚の規模」についてご紹介します。



【図1：調査時の柗原貝塚】

柗原貝塚は、柗原遺跡群という複合遺跡のなかにあります。現在確認されているだけでも五〇〇㎡程度が残存しており、推定面積は九三〇㎡に相当すると考えられています。鹿児島県内にも貝塚はいくつかあり、中には国指定史跡となっている貝塚もありますが、その中でも柗原貝塚の規模は、熊本・宮崎の南部を含めた南九州において最大級であるとと言えます。加えて、現在でも地表面に貝殻片が散見でき、地表からも貝塚であると感ずることができるといって、全国でも珍しい遺跡であると評価されています。

貝塚は歴史を語る情報の宝庫であるのと同時に、SDGsやジ才資源といった切り口からも捉えることができます。情報発信を続け、多くの人に触れてもらい、考えてもらうことで、新たな魅力が発見できるかもしれません。



【図2：柗原貝塚から出土した岩偶(がんぐ)】

「岩偶」は、文化会館に展示してあります。アクセサリみたいでかわいい！

(垂水市教育委員会 高嶺光佑)

―翻刻―

『垂城三十六歌撰』

その1

『例の桜島燃記の著者、伊地知季虔大人の撰に係るもので画も同人の描いたものである。其れを町田案山子氏の借りて写されたのである。其れが今割愛されて私の手許にあります。併し美濃紙和装で蟲害の虞がありますから、茲に拙き筆をも顧みずに縮写して置くのであります。(栄十之)

*昭和四年八月『垂水史談会報六』より

秋の半成る頃

風いと野分立て

いミしうはけし

かりければ

公

*公・垂水家十三代島津貴典

秋の田の稲葉

吹しく

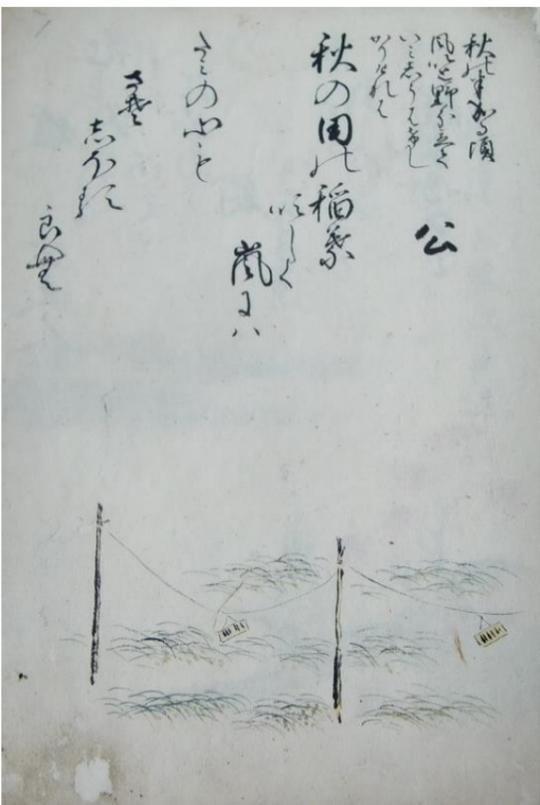
嵐にハ

たみの心も

さそ

しほるらむ

*吹(ふき)しく・吹きつる



雉

公夫人

花の色も

あくる

外山の

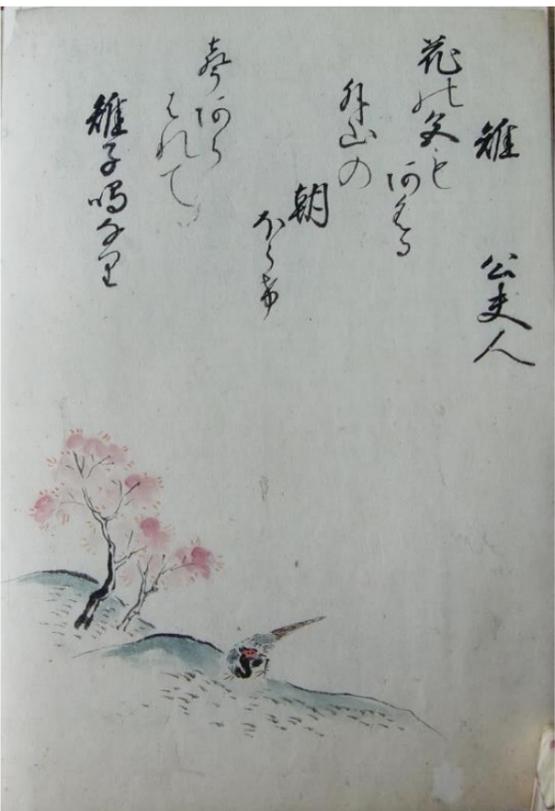
朝ほらけ

声あら

はれて

雉子鳴なり

*雉子(きぎす)・雉のこと



△まち歩き講座▽

今年度も、市民講座で、「まち歩き講座」が開かれます。史談会会員のみなさんは、申し込みしなくても参加OKです。瀬角さんと一緒に、垂水のまちをブラブラ歩きながら、楽しく歴史や風土を学びませんか？

第一回 六月二十二日(日) 午前9時市民館集合

※鹿児島神社や下宮周辺をブラブラします。

午前十一時から十一時半ごろ終了予定。

天候によっては、座学になります。悪しからず。

第二回 七月二十七日(日) 午前9時手貫神社集合

※龍門軒や水分神社などをブラブラします。